

續編孝義錄料

九十七

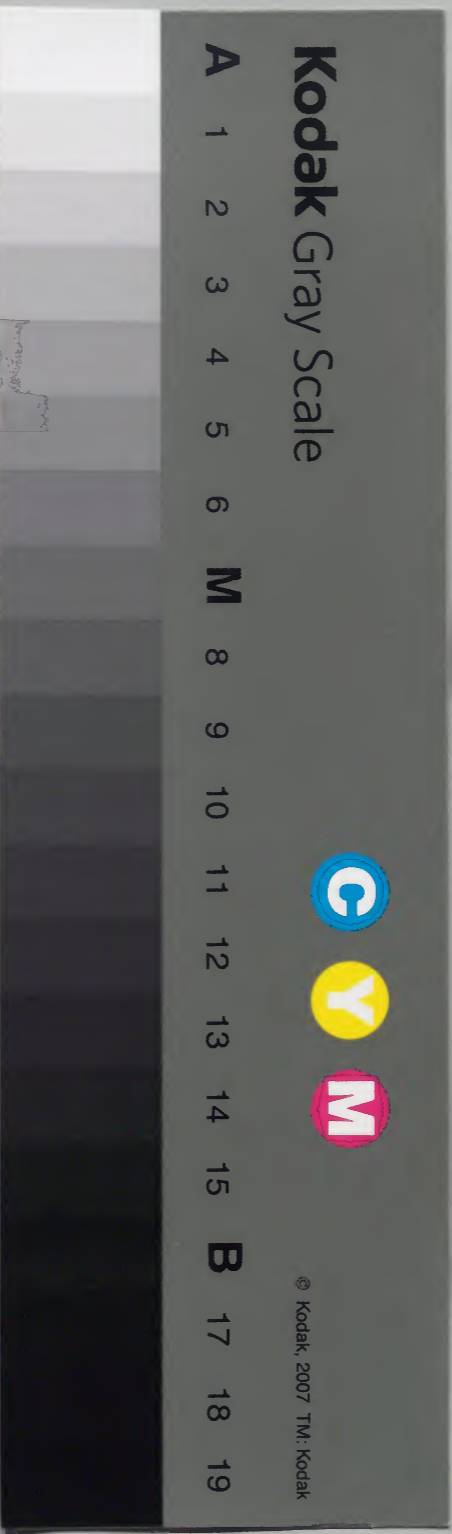
西海道十
肥後
日向
豊後

改九

共十二

庫文閣内			
函	三	三	和
架	九	四	書
冊	〃	號	類

内閣文庫		
番號	和	34594
冊數	90(88)	
函號	157	401



相良志摩守領分肥後國球麻郡

孝行者覺

物行武藏

肥後國味麻郡国許村



相臣志麻呂領分

肥後國味麻郡国許村

足跡

持之石三斗七升七合

城音寺平吉

寬政十年七月病死

寬政二成四十七歲

右平右儀孝行者由村役人

相紀和父平義依妻八光陸し病死

獨身之長子也七八年身取眼



何事成人の助を得られ相辨らる事
 あつたに甚令難儀の年台候父の
 難儀とお察し別る氣と附相夕の
 食事し之何別とある衣の燭寒
 何く相伺いと節せしむ村役候お勤
 用難儀の始末少付し忘らす出入起居
 你切夜今抱いさうに父の意り
 くらしくいさうして一日を送り

安ううーめんと日夜孝者甚とあり
 其外傍米の交り睦友村役の勤方も
 能り届孝の實義者身寛政二年
 庚戌十月相庭獲美中付候

其の行状
 其の行状
 其の行状
 其の行状

同人領分

同國同郡宮原村

呈啓

持之武石を斗七外

甚田儀之清

妻

寛政二十歳

右之の孝行者、由村役人、
おれは姑、数子病身、歩行も成、
切な退居の節、歩行きたり、
農業も打捨、血白所、寄員

あり、病苦を慰り、日東孝行と
あ、一作農業も精い、
親に侍、家の節、
子共と、婦道と、
その身、寛政二年、
庚戌十一月、お在
喪、

同人傾方

同國同郡

家年

林田七重

東田村

加助

持方武右衛門

寛政十一年

寛政二十五年

持方武右衛門

同人

与去清

寛政二十五年

右足身くらの孝行者く由村役人

中もみ身相元知知少く時父死去

せしめ母を人お足身くと長育し

修く成長し農業亦お精いゆ

又夜亦お勤ら種くおぬれ足身とも

おる孝順小くして聊茂母の意小

くすす相夕の合解の衣服亦

おきてお極細切小くおとあ

このくゝ鳥くく教て精おさうしむ
先年西のり一日机井お教の首茂
自ら不持く教物とあかしく急難を
救ひぬれ一村中机井お教の首茂
新敷小はくく右所存の安義
この身寛政三年辛亥六月お返
後身中付作

同人傾ふ

同國同郡糸田村

持言武石き計九井六合

百姓

平六

寛政三年二月

右平一儀孝行とありは後村役人
中おのり相礼は元来律義よのり
能父母はくく父若く病氣は直らぬ
始候おのり音病しし極く者

増光食物ホキヤクニホシキ方買求て
コトコトヨリコト又ホシキ見セリ度分
トホシキ何ホシキ買求るコト
何ホシキヨリ病苦と慰め奉買ホシキ
又彼を以テ寧ろお勤儉ホシキ者た
無クテ教ホシキコトのホシキ
セリホシキ人組の中候も能ハシ届
村方のホシキおホシキ寺持者付

寛政二年辛亥寅月相違獲取付作

同人領方

同國同郡同村

持方ニ右口斗女井口合

文花之寅二月病死

寛政五世六十一歳

百姓 辰 助

右辰助儀者乃寺持者ノ由村役人

お礼に如他家分告子、来り此如告女

六歳時夫婦共長病あり六歳時七十五歳
妻八十一歳に死せしむるに及老の
付るに氣力衰甚しはなれ又家中
飲食不振も入起居日重深切に
付てく分抱しし母夫婦切妻
さんや〜かと好物あり毎ここれ
ま〜又川魚好物付農業の暇
胡弓おの然泊とたれ細るるり同

これと相いしむ中酒焼酎と好
酒の焼酎と製〜一日の相と
酒とも賞味しておき〜酒の
よりこの酒と好しと念事と後
白粉をさなるとなれ事もあり
活白相と〜又年々懐りの事
多〜酒の好し〜見事相と
〜酒の好し〜賞味はるの

常にお割しは私に実求無根方より
貫の山脚に五倍のゆる相まらぬ事
向く有くは二葉の老をいふ一作
糸り度中は長六今日六日の暑氣の
切き涼しと付く一糸今日六日の
室の氣は又暖あり日し一まきふと雨能
ふかふも是非一糸方中は長六無根
月といふ一階は五載の作事とてハ

糸傳りし一糸は或は作物と
打之し一或は実と判れり事
まきしは切は切つし一是れは金
中割りし一糸は驚らぬ作事
糸傳りし一糸は或は夫婦の老あり
糸傳りし一糸は或は代りし一付法
糸傳りし一糸は或は切りし一糸は
糸傳りし一糸は或は切りし一糸は

反助儀に於て遺る者せしむるに
其の遺る者出奔せしむるに
いふに遺る者いふに
一者一助方より引取らるる者
渡世及種族いふに引取らるる者
引取らるる者存するに
一助方いふに引取らるる者
遺るに引取らるる者存するに

是に於ておのれの家内中一助方の
種族より引取らるる者
例に付別居宅を建自の所持の田畠
家財もと分ちりて之に於て存するに
お勤りの間におのれを
遺るに引取らるる者
家財も相譲り與人を又暗發秘業
いふに引取らるる者存するに

あふふと引合はれぬは似科ホも文の事也
有しは似た細儀より似子哉母と
しと昔年の昔に似れは前廣より
弟と梅田村方科儀のよのよと似り
有しは似りして似非之非元似儀
似馬付しりち仕事りして似と
つこいさうのお愛り似右を似いぬ
似又も似作ホしり一若く親縁の事似

貴度も似お似方と似似と文の似
毛似も一人おと貴りる似御の似
似これと似せしし子事りかた似
孝似の似實義者身寛政の似
お似夜似り似似

同人傾分

同國同郡梅原岩村

持るる石八升六谷

百姓

安右衛門嫁

不也

寛政七外二十七歳

右より右の老い老い由村役人かよ
おれは留安衛門本他より解落
系り右妻おし子も生質点沈其
肺痛く家事よりお勤りの
ふも川越の安衛門下付の妻は

右時より老い切たおし子も
いりる中付の身主御が
川更に九ヶ月同姑痛不有
身仕舞いおれおれ毎期
おれとよ病一髪とよい衣
内にお夜お見若れと
食事茂れ角を付る
おれとよこれとよの事七

始日辰相夕々、食物が衣履未ハ勿備万福
字と付分抱り、一とく之の
言、遠い事と能勤り子大あ人
有、山常、大切、出育、比り
の、ある事と云、或、り、その、人、と云、案
争いせず、家内、和順、他人、此、を、厚、為
海切に相、ゆ、り、右、道、孝、行、奇、物
との、付、寛、政、七、年、乙、卯、七、月、廿、五、日、

中、付、作

同人、願、方

同國、同、形、須、惠、村

持、言、之、石、或、斗、九、升

百姓

法、吉

寛、政、七、年、乙、卯、十、日、

右、妻

寛、政、七、年、乙、卯、十、日、

右娘

たせ

寛政七卯十月歳

右之者大孝行より由村役人より
ゆも村お礼お清吉甚父校八事
獨身村甚少村分肺痛る農業
おお成換梳とい後世とい十六ヶ年
清吉と甚子いい一子お清吉妻と

途一子甚茂後お生いといよりお窮
いのはお大お村睦愛農業後お精
甚父お自由無いお物おハ勿備夏
おの衣服之お糸湯之申と村御切後
今抱清吉甚子お成いお茂いお徳い
換梳いいいせおい今年いおい
痛所いお強いいい歩いいおお解
お成いお娘たせと附書いいお書い

火と焚火と夏に涼——さ本座と見立
お月半の控八と抱拍へて海物と
居直の好もたせもか——さ生質と
後日例とささく次たもこの火とささ
蠅と拂い無く今抱いあ——夕は
又お月中の拍へ入お守りの中作
控八依子大回然ある生質な盆好
近多——娘大集り踊かといあ——い

ささく清告作不のゆる踊身物と来るあはれ
おさめめ自らしたの——いの舞とて
子連脊負おしらの極も笑とのこはれ
控八病氣使、も流あは合手車茂
殆兼り、身も、波気と働青物かと雲求
らさく色あ、料理はるま——めはれ
もとより青物好れ別る控八使く
殆りの毒事し清告回不数子考書を

あし飲食衣服未だ極上を御備へ
且痛不^レ^レと^レ病^レと^レ膿^レ汁^レ多^クあ^レ
具^レ氣^レを^レ交^レひ^レた^レが^レし^レあ^レひ^レあ^レ
分^レ抱^レ深^レ切^レと^レあ^レし^レ食^レ事^レし^レし^レあ^レ
食^レハ^レ食^レ物^レと^レ病^レ人^レノ^レ前^レ出^レし^レ先^レ自^レ分^レ
然^レら^レる^レ病^レノ^レ外^レ風^レ候^レし^レく^レ出^レ来^レら^レち^レと^レ
いと^レあ^レし^レお^レま^レし^レら^レし^レ事^レ大^レ難^レく^レ近^レ隣^レ
の^レ大^レ見^レ及^レひ^レ後^レ感^レふ^レお^レた^レせ^レり^レ

知^レす^レれ^レ極^レ上^レ極^レ上^レ附^レは^レる^レを^レ在^レ書^レ中^レに^レ
是^レ亦^レ一^レ度^レ元^レ火^レと^レさ^レり^レた^レと^レさ^レり^レめ^レ
之^レ今^レ年^レ一^レ回^レ一^レ日^レの^レし^レく^レ極^レ上^レと^レり^レ
乃^レ自^レ由^レ今^レ在^レ五^レ也^レし^レ一^レ朝^レ夕^レの^レ食^レ事^レも^レ
親^レ先^レ中^レし^レら^レる^レも^レ祖^レ父^レの^レ名^レ建^レ好^レの^レ中^レに^レ
毎^レし^レ祖^レ父^レの^レ終^レる^レ名^レ信^レ名^レい^レる^レし^レ
或^レ付^レた^レせ^レ病^レ矣^レし^レし^レ一^レ日^レの^レ所^レに^レ
綿^レ肉^レと^レし^レの^レを^レり^レ味^レ何^レ在^レ泣^レの^レ中^レに^レ

身はゆき祖父後只今に死にたりし身
終に柱八寝不日来り名と守はり
目と用をいふ中は彼らの名は
深切に今抱ふ中一兵は知少く
一まじく試んきめ死に辨りし
右に通はれぬ事交貞実との也と
信し中は柱八死に追慕を交はり
追慕し者た祖父後にも度及れし
と申す

善と後ゆき善は是より居る
母の外秋きし身共し泪と流し
彼感の由は清名を月一同存
表申し居てし善社と信し善
了寧にお勤ら申すは清名は生
してかりそめし人と云ふ事
侍宗の由しかり睦交は申す
右に毎身寛政七卯七月三人

養員中村作

同人傾介

同國同郡渡利村

年三〇

百姓

小八

享和二年二十九歳

中 庄 助

享和二年二十七歳

右兄身者孝行よし由村役人なり
中村身おれははる矣嘉身小八年
九歳より年李村公におそ好少く充
得奉と世貫いしは實自らもまらとを
悉くお親にお供りおれおとけ
お徳りよの途市ら目村よのあ含
甚くは親く安否と守忠と云侍い
町中におも含はれも菓子あんち

予亦地爰不身是為り公好也實味しむ
初是し或時之人に戸上ら運言中運如
為親大為亂此言同中言はるる實
一在とて正為り字は初に教も後其公
為報恩供いぬ一折角實體の初勤
江に才成物と聲言初也心是之也一使
中一付階法初府いぬ一は如旅津心
丁寧にお勤と為言言ハ僅一信分の目も

信本條より外簡圖示と為親徳持系
以中一は言也一何ハ父初七大為正聲言
子速報方は初右信本條是物仕立
一とせは初ハ初白初一とせは物と名とせ
簡圖といふ物と初白名はとて人あハ
半右ハ吹徳いぬ一初と流一は初ハ
大為年身白ハ左物ハ初報系ハ初折角
おまら初初大は初初初ハ初初初

子連茶と貰ひ始飲ふ處振用為夜
はた後く病氣お苦勞教おと念はる奉
みお酒焼酎とかりと給い存あり
求むおとかり一日隣村に酒と買
つたお酒お苦勞大苦る通飲せしなほ
洞水の中と下り流く事武拾丁計
しと流く道をことり存隣村茶お
此所は酒多しと名とお名酒濁酒と

少く貰ひら又ととのとく洞水と
遊りおとかりとこれとまむむと
き里余り隔りい城下と町は日にも酒
焼酎と買求らるまむと酒焼酎
初めと人との傳とおとかりと者る
九葉にお酒お苦勞おとかりと母産好
病氣とてお苦勞おとかりと者る
くくくくくくくくくくくくくくくく

之後自炊して妻子も給せし物は
大草と妻とけりしはねも病裏に事
ゆへ給魚も儘に金とと底助初め
身も毒と思ひまじりぬ親も給ひ難方
引文親も恨しく給ふ者調ひ
おきまじりぬ身も又母も代り高草に
身と日衣抱き抱へ汚物としあは
まじりぬ切も表育せしり又も中

後おきし高草も引文と表育たぬ言
まじりぬ困窮おれしもぬ親親体
まじりぬ計り事も能く言ひ
まじりぬ情りも後身も教ひ問答
まじりぬ一旦あ人も身と高草も引文
日衣懐抱汚物としと洗ひまじりぬ苦方
まじりぬ身も迎隣に女も洗濯も
まじりぬ度くもねも一もねも

切實に他人に教はるる事
自らわらひききてこれとせしむ
親し衣服を送しむ世に誰と知れ者
着物とぬきしむとせ世物産を私に
生肉といつて見吾にけりぬやう
しやとせしむ元來貧窮之父母も
病をなると農業者も加見小八の幼
事公も信ずるお供りぬ大分分

佐料に不足し付衣助き人
同く勤とせり毎曉七時
このあ親と高今世自ら
町に薪をとおし
飯飯付しむゆり
此紙にあ親た病身を
日夜火と焚しぬ大
後し父に元來酒焼酎と好し

薪代りて飯米を買求海分る酒焼酎
又ハ青物も小葉子肉んちうと
買ゆるも親もまじり母音に如きは
あ彼の健康もいふと川もさきともの
まじりせら連下りて舟他もは長ハ舟たに
能く付密今抱いしとせは父母宿中
あ相もまじり付城下る古の表と
貫いぬ親の居市汁敷く自い

き果楚のとておま右へ毎程く振く
若き程程いぬ一在中とる休是
同茂もまじり大義存るを幾す
一とせ粟畑に付る早穀る田村との
植の粟は一斗も生をさけく産助薪山
次も畑と伐植附は八身年一と生
実入しとまじり年生父母孝めを
そしは天の助とねゆと人

感心し〜い相又兄弟を志し〜
傍案の交り深切〜して又彼亦〜
良人よ先立るもあつたの貴れを
是厥徳と仰いふ海村方出浅が亦あ
人〜悔し〜事〜多〜人〜感〜
右と通兄弟年〜病父母上孝行を
妻〜深切〜後音病〜長生〜
〜死去〜先妻伴〜居〜七日〜唐社を

信〜墓系示れ忘事〜
つ〜書〜通〜
二年癸亥八月有人た〜お返書員中付作

同人領分

同國同郡大村

武人扶持

洗士

小田八郎左衛門

妻

文化四年壬辰

右より左の存ありとありし由曰く者か
よかひ存ありし由曰く者又建つ七十年向
中流るる河に年一川のありお侍身料
名付しと老免せしり存留し脱免
念本本ホし自心はありお女姑本茂
二とて東日病る是又念念し自由し
ありお女姑日表側とあり離出入起居
多とほ念おとありお女姑も先自心

試と存著とありて流させお女の流ハ
人目と悲しお流る流しあり火燧に
つけ又ハお流るり日、男姑の髪と
ゆい顔とありし由とありしりりり
名見若流しりりり流るるもとあり
流るる流るるりりりり日表力を
ありしりりりりりりりりりりりり
力とありしりりりりりりりりりりり

秘成の天妻幼方右に母をなす安ん
自甚いあり一は正の二人は正宮御
幼少の子たもましくおびしりま
届島山首に一は正の音病おれまぬけ
あまの病いあり右を毎せり一は正の
教目に向村天満宮に流流るる治
二人は病氣快後と行りしは
母病も亦年り夜に病を
見たり

赤らりぬぬと好いものなる病中力と
一帯りしと正の病いあり一は正の
病中力と好いものなる病中力と
病中力と好いものなる病中力と
病中力と好いものなる病中力と
病中力と好いものなる病中力と
病中力と好いものなる病中力と
病中力と好いものなる病中力と
病中力と好いものなる病中力と
病中力と好いものなる病中力と
病中力と好いものなる病中力と

姑と背負海名いふ一被是と少と
賢め弟事一自ふく勞と忘れ海切
孝志と妻一いつ文化元年丁卯
月お直獲受り付作

同人領分

同國同姓先田村

百姓

安之助

持言武石九斗五升

文化元年丁卯年十七歳

同人

妻

文化元年丁卯年十二歳

同人婦

こら

文化元年丁卯年十歳

右ノ者大孝行と妻一いつ阪村役人
中身相化如安、助を母八十歳
手取生質貞実一いつ元氣女幼と

勤め農業待れて後出精らしのこい
 安し助始家内仲一年て大切後分飽
 二四年山前より老を毛いあし
 稚児回れく云女のこはぬ先安し助
 お直し河しらすいお長月あては
 一して暑くと凄さい安し〜
 付ふハ自身先煖めは名物と云せ長
 時分を春仲一冬に度も子水に

家内等〜〜〜〜〜
 たきなきと訪ふ二人元是非附は
 或ハ眠急ぬはあ〜
 或は屋敷より又ハ道急に歩け
 或もそら〜〜〜
 弟外はははははははははははは
 大柄〜〜〜
 或〜〜〜

中巻の如きは方居るしあかかけ付
脊負連綿りし又見物事亦しりし
脊負の魁りし安助元身負窮白
飯料し漸くの解らぬ老母常勤好
そ氣し付るは念及飯料し向と常勤と
買垂れし相りしりしを印洋敷雨ハ
何れしししに買味垂相りし又酒か
おし相りしりし山井の徳英作所ハ

正巻の如きも必き人ハ海り居後分抱ハ
安助を方ハ正職は高ハ高し付是
近所しりしは相垂りしを毎一辨
農業向出精は者ハ忠介ハ其志有
加勢ハおれしりしは相垂りし付
紐と一巻はぬ粟や荳分とハ交
成はるその破とハ破り成ハ灌子湯を
者ハ立垂りし味増巨かと投入成

種見し我のこゝく女事た多き
七世ハ薩摩芋たぐいの物とを
氣に懐くぬれまか一慰め由り十事大
同く有くは相又こゝを親に存て度
度と申すは七世ハ近而を人ハ夫婦者
多し不ハ連りしは親ハ對面し存
お出はし嫁し事お見下しは女ハ物
ナニ業し時ハ父死を母と人ハお出を

成人ハ好ハ安ハ物ハ性ハ縁又十事方
所誠物完達女ハ世ハ信通ハ向ハ
又ハ近きこと出望ハいしと事ハいし
安ハ物ハ別ハ厚く者世と改ハ其採
を氣ハ母ハ感ハいし一為ハ出澤ハ
このハ物ハいし一安ハ物ハ元ハ實義
者ハ向材方ハ交ハ切ハ交改ハ其
一為ハ紀ハ名ハ者ハ流ハいし一母子別

吾輩人猶北出精いり中し初少く
このふと出出はつたよりの前より
お勤をいれ一村中し感いりりりり
右通身文化に年丁卯に月三人
相懸獲免中し作

同人傾分

同國同和湯前村

呈啓

持言三石七斗八升を合 兼良法助

文化乙辰三十歳

右者孝行奇特者し由村役人し

中より村お礼は元来津義ありし質
農業向出精治上細心息公役未丁寧
お勤且忠母に孝行は勿論也同并村
交り睦友一新人し猶北奇特者

彼く貸與つゝ毎水田柱身は六飯科
名支少くの他借らふ家業と学は地
近海滞り一教五人組ふと世話と御成
是と一切せし法助妻し未も若さ
そのは如文し教能順長し人の能
文は成すし是建茂法助教方中しく
の届は成とお見成孝ん奇特たす
その身文化六年戊辰十一月お直書矣

中付作

同人領分

同國同郡

家中

知行菟米百石

赤坂傳三郎實方

赤坂孫作

文化六年三月

右者孝情し以臨後感ふは後山隣者夫

中もいふ所をいふ如く一辨温順にして賢く
 去夏六月に父亡見賢治長く病中
 音病向引届且賢治事を妻に託す
 如も別る介抱して成引更服薬飲食如
 孫作はは西然り事し病人の言計名
 調へおとす音病い申しは九月中旬
 病字お言方り杖更音病力とある
 如も下旬にむり坐及死をたはる靈徳

茶湯未減生す付のこく丁寧にお侍

且又お内女とてハ賢治實母

兄の子賢治と母甚子次賢治又孫高の甚子
 孫作又孫高の孫
 兄の孫と甚子とす右は孫作高の長祖母也
 七十余歳

お家計は極老の儀飲食衣服亦
 之配届意は付衣食と始瑣細の家事
 孫作は信は在別賢治死存ハ老母
 哀悼之情と慰めは申しを母の旁
 之に依り扱日ハ髪と結せし為し

己巳月相言寢食之儀列与怒汝令絶
不才誠孝情之志名淺比付文化六年
己巳之月相恩獲英中付状

相良志摩子家来

文化六己巳年十二月 九尾 一

相良志摩守領分肥後國球麻郡
奇特者覺

年節

相良志摩守領分

肥後國球麻郡每床台村

持言七斗六升五合

寛政元年九月病死

寛政元年五月六歳

同人領分

同國同郡人年田台村

持言三斗七升

八 共 播

寛政元年三月三歳

右武人々老々奇特成者由村没人々
相乱れ心底實義として百段に身
守り農業文没小人汚れ没出精
勿論村中へ交り睦友伴共々
弟事教方仍居り成長と農業向
徳文没人汚れ没出精村中へ
中教官も農業の以末明か出言
物り百段に身老々奇特成者由村没人々

十一月相違度次中付作

田人傾方

田圃田那湯前村

持之武石二斗武升七合

文化元年二月病死

宣政二年十一月

持之武石二斗七合

宣政二年十一月

在作

右武人、老夫奇物者、中村江人、
 お乳母、右在能事、百世市、
 昔子、波内、浪、市、
 其人、
 十、
 奇物、
 け、
 孝、

同人傾奇

同酒同那中

知り流米百石

永田高所

永田吉平

文徳、三十一歳

右之事情順之可跡致感心公以邊境
よの中におかれお乳の乳兄十四郎其書五年
以来病乳を去る言又朝夕病人公公物も
勿論家内中衣食く不考と去年門文
右を姉嫂去く卯九月廿二日書お生らる
右嫂去辰七月廿五日去りお存中中前
中く小児く取扱ひ出来兼お種代女へ
去年迄意也いへへ嫂お存の種文

皇親とてに懐くも泣き乳と書ひ
泣きせ書育くく衣類く襟ふと自
流ひ清く謀く奴僕く常伏り兄
十四郎にお勤め在十四郎代り家事悉く
才去年に御勤仕るも書少種代
情形く可跡公相違公存文化二年己巳
三月お無寝矣中付作

同人傾分

同國郡永國寺門前

外科醫

寺田良海

武人扶持

寺田興七

文化三年十七歳

右者實成我中僕るる美事辨遊
幼状中近隣に去大中も其時お乳
美年此他家去りお成りゆ夫今後

識る波離別を去る又兄良海實子
文頑知弱を去ら七と養子に汝文頑
成長し汝順志すお執及名一執
中誤其方を去ら七中関る良海
存念に松懸告ゆ夫多年に貧家殊
良海父母を去るも其時お角良海と
惣文頑を教育し追り家業汝去七
高名達るおりも其時代住るも其

其身一人 乃内尔僕婢之業と云
田島山野之極新採竹夕々人々
良琢父子之衣類亦と世話と云其
謀之見者一と云報之数年昔物
粮花子多在適化人 古云亦と世話
多々文頌之云々云々 家初々
言成山邊者之情形之形相遠矣
孝公身文化六年己巳二月相道履次

中付作

同人傾奇

同酒同那水園寺門前

只人扶持

下道醫

甚田宗吉叔父

甚田平作

文化己丑十一歳

右者正路成中續之由迫路之老丸

中より身おれし和宗古父元哉存し
しり貧窮身奴僕代り農事し
心野と多賤き業と学と家事と
との元哉存しは益貧窮小おれ
ゆき平作働と心家内中飢と免れ
るを古法又宗古母より近年高き
おれ家事も居し心は付るは事
別又息に今抱しと数年内おれ
難難と厭し人源切と改世話奇
このくやおれ身文化六年己巳二月
相應慶長中付作

相良志磨と家来

文化己巳年十二月

九尾一

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

相良志摩守領分肥後國球麻郡

孝行奇特者覺

相良志摩弓領介

肥後國球麻郡大村

百姓伊藤家内

之云

大内女

文化元年六月

右之内女孝行者由村役人等申付
相礼以爲大内女事同村百姓を七と申者
嫁し親雲小者忠吉相續せしめ忠吉事

病死拘名大者も通儀通儀とて致方多く
亡母枕と多と自向終夜念佛と唱へ祈りて
通儀とて来通儀告知お母冥誕式お父
之後墓系ふも念孝者如く始末具相
文化の己年十一月お母御葬事せしむる獨
し者も居屋敷とて及お母之令及抱お母
お懐ふお母お母のりし令得御旨中付は
南文化の己月之令とて中者出はる御出

其通中付は

同人領分

同國同郡久米村

百姓

十吉

持高石八坪

去年十一月病死

文化の己七十七歳

右妻

文化の己七十六歳

右實子

茂去

文化三十四歳

右妻

文化三十四歳

右實子

常去

文化三十三歳

右妻

文化三十三歳

右之者其孝心上實後者。在村役人
中おのり相礼の意、又家内和順にして終
親より子と云化子よ不杖之顔色と云
いぬ子其は從父孝事と云一平者酒と
好之妻い菓子好て好い子其町家におい
度毎に酒焼耐菓子好と買求り十去
夫婦は樂一物又女業人の務ま令事
其一年首人吏役お不怠若村内は病氣

左傳の鄭注者有るは、家内穀
作多しを、年々方随分有人と相勤
中、未汲南日よ、或い人よ、
材方と、遠引つらき、
廟相成い事

一 家内作多し、
酒者とも、
長病又、幼少も、
年首ると及、

穀濃者有るは、
深切よん、
一 右、
他人の、
之、
み、
借、
下、

穀濃者有るは、
深切よん、
一 右、
他人の、
之、
み、
借、
下、

不置其聊心一不掛勿漏利是也

一 後古妻親里小一分負家其之

盲一お成生産一の粒成難一也

子先之一人一と忠一の農業更致一不怠

為勤一也

右之通家内一同新奇特者文化也

十二月お毎一儀家一中一也

同人領分

同國同郡久米村

百姓

持一りお石一也

又平

文化也一二十四歳

右妻

文化也一十八歳

右娘

文化也一十三歳

右之者古孝一の奇特者一由村役人一なり

中におはす相乳養ふ又平事忠子とて
此の母に常く孝養を盡す此の母に常く
乳養を盡す此の母に常く痛を盡す此の乳
養く此の妻に常く忠を盡す此の附法又平に
吏役家業を勤め此の吏役代り痛を盡す
控さすり此の酒合を調へ此の又平
娘に祖母を親とす此の不逞祖母病乳後病案
附法に幼くお母を看病親子を孝養を

己し此の忠生し相討合此の忠後
家業人小徳を此の忠養ふ此の相縁
及此の忠を信じて其の忠を納め此の
信じて此の忠を信じて其の忠を納め此の
少は此の忠を信じて其の忠を納め此の
此の忠を信じて其の忠を納め此の
此の忠を信じて其の忠を納め此の
此の忠を信じて其の忠を納め此の
相縁の事

右之通考の寺持者より文化六年
十二月お意存家より中へ

同人領分

同國同郡一武村

里後

持高の石七斗五升

黒肥地忠み

文化八年四十七歳

右妻

文化八年四十七歳

右之通考の父母に孝を以てし且寺持
高の石七斗五升中へお意存家より中へ
貧窮を去るも困る持高の石七斗五升
お意存に借るもお意存は親好物で酒盤
之を多くしお意存は孝を以てし
父も内幸し中風之症より歩みお意
存も病身より服薬を由りお意存
之を代りしお意存は病を以てし

一 父名内事年滿未正月拾貳未而病死
母年八月廿二月七拾余未而病死
葬式出丁寧中而莫余不怠孝公
好生之由而復公事

右之通孝公且奇特者年滿文化未
六月也應在家受中而公

同人願分

同國同郡官原村

商人

利字花

文化未四十二歲

右妻

文化未四十三歲

右利字花姑妻為一實母也史妯
者年長也之由中村没人中出也付
相乳也知右母年之拾年之來癩病

相類打外、女を以て其の人身を拘へ、
町家公求重名、酒食之度毎に
耳腕と幼め自身著と取事不許、
利字新支妯も代り、
難病の悪血も流し、
支妯を押さぬ人、
汚し他人より身と流し、
夏より心と流し、
母も無向新度

りや、
二便と通用し、
身合あり、
下女を人として、
り、
り、
一商人、

一 親類の事しむるに外服方お裁敷
和し持取先母の樂之其修と家内お考
取書味は親又程色味縁と深き
盲人を入來の地を出入を母と為り
吳の如お頼お分とし田舎病苦と成り
然る盲人を憐れし物余考又為知
少け者仕向と悦ひしは又姑の病身
お成益申出ん程暮余不計事と

夏は右取分密ふ小背肩又板あせ
連行お礼為取事

一 二日町と節と中者前方出の子念定
之後取きて出る父子は續地は地も
旧きを忘る節の飯料と不しと取
中紙の度毎必為持事

右通考中食と實成者牙南文化
未五月お意宿家更中付

文化八年辛未年十一月

相良志麻呂家朱
菊池宗光造

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

日向國領分之日
豊後國

孝幼奇持成者應養先造公覺

内友免之進家朱

今村興一造

淡六
日向國白梓部恒美村
百姓

内者免之進領分

日向國白梓部恒美村

百姓

方言拾石

淡六

萬二千四百歲

右者為之實然如者之耕作分種并
川深著之立不田地向万部之無致古項
位之中甘公汝之勿備材設今之身者
堅如先中睦補法親親能能混力之
為之自之奉同之世後致也

右之者以若年より多親之申付少後
 お背申彩夕丁軍ニ老級家内隠爰
 彩又村方上歳百結ハ係成ノ一納言
 村方お屋ニ急ム良モ成去居百事百業
 元斗奇お氣志ニ此村没今ノ中達ハ分
 お此ハ如母ニお達奇お成志年寛政三寅年
 乙月為ノ廣矣今自ニ貫文ニ成去
 中作

一人願分

同玉同郡同村

百姓

お言臥石九斗四孫余

庄之印

南巳五十七歳

右之者以親申付多お背申彩夕丁軍ニ老級家内隠爰
 彩又村方上歳百結ハ係成ノ一納言
 村方お屋ニ急ム良モ成去居百事百業
 元斗奇お氣志ニ此村没今ノ中達ハ分
 お此ハ如母ニお達奇お成志年寛政三寅年
 乙月為ノ廣矣今自ニ貫文ニ成去
 中作

者有安永五申年六月申為廣安為自
七世之文若若如一人天明己年正月
六十五歲之及病死傳之嗣後二代
引續者心奇於來之有寬政六寅年
正月為廣安為自之世之文若若之申

同人領分

同國同郡之了子惣名

之世村百始利七妻

おのり世名御年之谷

里々
高己三十九歳

右者後曾孫也為考人の事
お傳といはるるに底に記を、之能を流
其といはるるに傳之申太五人古多系粉
好為之有家月大勢屋蓋といはるる系
河山之洞室といはるる煙草吸分園上管持運
為給之考子下之にお傳といはるるお運いおと
朝之早天に起といはるる朝飯左折系折
致し系多系粉系麻系おお系
給買姑起といはるる夫友友為給上世

承以... 廣河... 延喜... 九年九月...

同人類分

同玉同類右果之...

百姓

伊之部

南正十七歲

おのり...

右者... 延喜... 九年... 廣河... 延喜...

同人頌

同玉國郡古日景

勢尾村百姓

抄言武名七年家錄卷余

八十高

右者後親代多困窮者心然此
美年より宜和農業も精致し之納
言毎々初細致し之れは後段目未
右切之れ如勤友百姓之義是之百姓
養之戸誤之酒未之致之れ中誤之れ

右八十高之れ心然之れ
人拙義軍軍如氣之れ材段人より之れ建之れ
右此之れ如母之れ如遠之れ宜和之れ如若之れ
寛政六寅年七月為之れ廣之れ為之れ自之れ也文
美生之れ中之れ立之れ存同之れ申年七月八十高
後七十一之れ年之れ致之れ病死之れ

同人頌

同玉國郡古日景
七之れ村百姓年七之れ

抄言武名七年家錄

由之れ高

南乙巳年十六歲

亦宵中為之有之西親承先素
 致一以分多也杉文炭育入之氣如
 此之困窮之苦言亦後素未村方之致
 世活也切貧窮之家内亦後也切
 再親之扶助或集之口口言言事
 亦成亦口日雇働也言亦言如衣
 者之也成也之口言感入雇也者賃
 多少之元亦領也之造也律右之通
 亦物集者之有之雇材役人之口口造
 亦以如母之亦透西親之實評之也
 亦之教法如神之為見亦也評
 年中修之亦也之能奇物之事
 寛政六寅年二月為大負名目七廿文
 差遣之口口

日人領分

豊後國大分郡中三河村

於三宅年森谷

百地
松尾信
尚也卒一殿

右之者汝文化元子年信水之民隣
家雜混之者古之粟麥之類心身未改
奇物汝者之由材役人より達山舟水
以之無子より遠奇物汝者之舟日年十二月
如之入之自之其之文之書之中心

日人領之
日之口都之江村
百姓
利之場
おのる者八斗舞

右之者汝意之親我之切親より中舟の
少我お省之別之病氣多之民を
丁寧之舟抱我之移之農業格別之精
之細向亦之急法役同勤之之我我之精
奇物策者之由材役人より達山舟水
以之無子より遠奇物汝者之舟日年十二月
寅年六月力之入之自之其之書之文之書
中作之然之無之利之為之民之寛政十二
申年三月七十二歳之其之病死也

日人頗多

同國遠見都平村

百姓

おのり名年二年余

久次郎

右者成親傳云... 少之如但村中... 二十一年... 氏名... 志強北村...

男子名次郎... 取来太女子... 取麻... 男子之人... 父并... 知少... 下今...

お徳度生故之久六師之りも
 一向之為成仁之師也其由來也
 為及格位甚高成以切在在成
 之六師也少後恨之以余乞之其
 法以若業一行之如格致一捨者
 以多之其被以切在只五親在切色
 今無事之謙之切在乞之其奇物來
 少人之一統其少之有之由仁之師成
 及宋長以之自法未意用之有也續成
 無仁之師也及後其之六師之師也
 外之居村之及中其多村之其村
 之者其五親之切在去遠之其後成
 之其收乞淨列其之其及者之其
 之六師也者之切在頃自其有之
 師中其老在感涙之流以法其成
 也其親我兄之其乞二男之其續成
 發之其美之切在中其誰中其其村
 其美之其水乞之其者有之其師之其

有之能作父之爲國身之命也
沙在乃若知我接かげと隠し
進見の如く之の心返さる親子
其縁より一有る事母を以て
情と通らぬ家未命に無かり有る
五親と見え給ふ所母を以て
方は設難お勤むに仁心
有る縁の如く之の心返さる
彼れは保ちて神の如く
流蓮之初より少老にお來り
心無かりと五親と云ふ
母の如く之の心返さる
之禁は流蓮の如く
彼れは保ちて神の如く
久之心返さる
事母を以て
流蓮の如く之の心返さる
流蓮の如く之の心返さる

有之は家財に似るは所々中肌
 為之候は他國被へは所と高村八郎
 中者見文付書と申者出傳付書
 書留の振と 佛料充永村と申者
 有之は久米寺伯母と申入の如伯母
 等進上宿病は中申補及之事候
 申事は退候と一然の佛候
 活用不足と案並同候と一並異の
 申事候入所給申渡候付書付書
 致世候御之流痛自為他申進
 候は御好候候有障子紙西親と
 良法御之為原之申と云書候供
 口下斗候見之流見申途申言進
 申事候御之明申事申見申事
 高村八郎一礼申事明ケ候事
 有之は候と引別進候事候と申
 候と申事と痛西親候事候事
 候と申事と久米寺執事國候

漢之如鐵十二年余之在之稼
之似之如 姑之系之出之知者
而者之在之被之書之無補將之新誤
之禁之物之由之生得之氣者之在
而之之入之訓之深之然之何如之
有身之之之之身之身之之之之
始之誤之傳之為之中之之平村之
取合之如之中何之有之右之始之終
致物之清之如之不可之能人之如
然之之傳之為之在之國之之有之
以之自之來之各之別之之南之
村之在之如之便之之之之無之
種之之之之之之之之之之之
元年之之之之之之之之之之
仁之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之
一向之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之

大庭元高書信の中書の如きは又之次而
字麻一お續為致以給中書の身之令村
より書後之申官村以給為之者
久之高為速獲分表上其遺久之高
伊國戸浪如知一向取知母之跡或
何年知信之申仁高之取之果
其高如お親何分取生一致心應
其之居之止事常書其後古匠之
中書の如仁高の取致お續

之取高存之居之取之居之取之
お高に高取之之令高取之令
及の跡五人事にお續之取高之村
後令高書其取高取高取高取高
此言の高書村にお高同人取高取高
表一書高取高令高取高取高
使高久之高書其高自之務自取高
高高書之遺高親之貝高取高取高
高之取及取高取高取高取高

及備命以經年者久之不而後獲之
 少々之経路取給往向河内國
 中今おて方之也之年之氣之細合
 以之如子実方之也年家督与七法合
 下中應之也皆左何之也親之難恨心
 與之違之也至元十六七年以分二海軍
 主之民家内之者若用物或一向之區
 婚之頃与及取之身而親海之也衣襟
 振為之也致相系伊國以來之傷念
 者以亦之也如母之也德母故も同育也
 女房之側之得也之也此之也致也抱
 移渡来久之不而自思之致也生之存也
 德母也之也果也如病中之也死存進
 朕言別院之致也之親傳之也德母也
 亦来久之不而後善方之也之也皆
 之也其目之也如終之也之也收之也
 子也之也村没人之也達也年也如記也
 其也遠名別之也者一也身寛政六寅年二月

如平負者自七世之文名者之申の兵に
太久之高後高如二戊年十月七十九歳に
致病死に

同人頌ふ

同國同郡小年村住

お高八石八斗六升

左大馬

右者及為言人亦お響村より對し

作之と云也之及申と村之人に為

お取し者之由同村之庄屋住信清申者

十歳之兄お果に毎に知少之庄屋取

申年之公之公之為世流と村方取

少我櫻取後世之他村之事之し一取

申之公之申之肉能知後之如移住に

取移しに遠方有者之公之左側不

取し住信親本是之申者之庄屋

早之信后取しに如信之後見之

取報しに之富老愛後發母之公之

物諸に如右通各別室外如者之

三由村没入より中道公母お礼の事書奉送
作方寛政六寅年五月丙午庚子同日申
先達より申同日土未年病死致公

同人領分

同土田部筆跡

お言石七斗六餘

百始 派書

右者汝父存生之良より貧窮之書
言有之由之知少より流方在之福亦
致し西親と目人純如西親及家信等
昔新之河木及成之如也其の母は
年無少より親之是母少歳背の成母
父を武十年以前お果お斗にお家お
寺之成他村之云少お成指村斗にお稼
お物お家お家お云少お成指村斗にお稼
人無多有之流分居宅の言方にお
お上之主人の流分にお家お斗にお
お之お抱お著おおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお

活ふ前借り不致す是後改以成母
飯料を免し角上著る者も其後
奇物策心知しこのと村を以て妙
有る由云ふ六年以て其母免棄身を云と
お止免し知村方と者免しと考ゆら旧知と
貸呉主婦との相善代合母と側と離る
中五便多し免母自由能成る在終
良も母と幾度と云ふよこれ物と法以
か知る後女房を御更と出置取以の
十度七八度と女房を為知中法
從權致し其母と種と家屋と中
日とと養業免母多致し他
母と中通りと致し不中と有り
以て之陰と云ふ母と之禁と省と中
若他方母免母多致し日と母とお尋
其國と法知知太母二十五年斗
前致病死市中沙島心在并送
等と後因窮と云ふとお意と云

取之有之公志海島以律家
一序之者多為人亦其以辰村段人
身中逢公身亦其以辰村段人
奇好來者身亦其以辰村段人
至寬政七年四月二十六歲其政
病死以如去別之者身亦其以辰村段人
節之身亦其以辰村段人
身亦其以辰村段人

同文類分

同國同郡律之符

百姓

お言之名七年八年

七名書

尚也二十二歳

右之者以初年之身亦其以辰村段人
孝行以初年之身亦其以辰村段人
平生子以初年之身亦其以辰村段人
非身以初年之身亦其以辰村段人
他身以初年之身亦其以辰村段人

多し出入二歳日々西親と雖ひ然不
及移移躬着女抱等園傳之りも他村
より我壽躬集るるに沙汰致し父を
二十年以てお果母斗に在集るる
中より骨形は者る痛氣身は以て影集
夜室に如父死存付け影を傳るり
全き一市西二年以て國室中
陸分よりと大切に致し作初標
何果言はし好奇は是るは家内
少く歩む遠程は是る好守を振遣
致し是るは是るは寺に属するは
是るは以て市家内一人不致るは
村方并に村出入一人對し指移小
致し是るは是るは是るは是るは
母之を麻合と用ひ客集るる
是るは是るは是るは是るは是るは
是るは是るは是るは是るは是るは
是るは是るは是るは是るは是るは
是るは是るは是るは是るは是るは

中達公身在紀州和曾之如遠并物氣名
寛政六年寅年二月廿九日庚子月七廿文
若幸之中心

日人領分

同國五赤那濱村

百姓

勘定六斗八升余

勘定部

高七斗二升

右之者親み七斗中者以米穀同沙苗藁
及庄の付勘定高深大備示之卷業

渡世は長家内多會之國窮お善に
在り如五親は是存りお是に
同人妹同村文治中者妻お如
却る而後是之國窮身を妹嫁文治
方と却る而後親引流出高下致に
度之文治主婦り勘定高上中同如
一高之形知之仕不自由之中是如
何之一所之如之知文之為出は度
中は如進之利害中合以之如親

文法方上引梅、如正、中、左、部、去、身
居宅分文法、市、是、是、法、礼、或、下、之
有、之、以、礼、崇、崇、号、之、透、之、且、合、每、日
み、を、二、百、五、十、位、を、五、風、等、之、空、左、別
至、智、之、限、親、之、上、お、紙、控、娘、好、り
家、内、の、吐、き、之、政、の、旨、勿、薄、糸、の、度、毎、之
文法、号、妹、上、西、親、之、子、之、已、お、親、の、旨
亦、何、の、由、右、之、通、左、部、去、身、汝、若、二、百、七
文法、方、上、系、市、中、引、引、之、親、在、之、安、言

身、二、遣、の、復、之、由、東、村、之、及、中
之、村、而、之、者、在、園、侍、之、者、心、奇、物、之
唱、有、之、家、内、而、之、膳、補、之、婦、之、崇、崇
お、精、夜、之、控、之、透、堅、お、之、新、日、汐、酒
表、之、以、以、至、親、之、主婦、之、心、之、分、入、念、分
是、之、是、何、の、系、略、之、後、之、子、之、下、智、奇
物、有、之、從、村、段、人、之、之、透、の、身、お、親、の、旨
其、お、透、奇、物、來、者、之、身、實、政、六、寅、年、奇
物、之、實、奇、自、七、費、文、之、系、之、中、山

右者内友免之進領之孝以人
書而通以所公之

内友免之進家朱

文化六己巳年十二月

今村興一馬

孝行奇特者行状書

伊東鶴之邸家朱

秋田定之右衛門

伊東鶴三郎領分

日向國知河部油津

水支

久七

蒲已み指七歳

右久七歳者乃者之由支配領分所お骨相執
又七歳元身家余しと術其日とく之溪嶽之
賣代百波渡世公事委百之人之至又と指約夕
考貴波事地瑞色溪嶽海上沖古福之郭毎

何方下河瀬集りゆき思ふ多知世親く意肯更
句く老父玉白酒正好ゆ成て毎秋又く宛在奇
獲く音と招慰共ふ事一年中公路事令家
く事止ゆ去夜具不足は白寒秋茂自心忘
不忘して親為忘ゆ形疎く孝公者く由
此花月享和日甲子年二月九日お意願受
十日

同國日初大堂津

水支

音三信

當已計格九歳

右堂津後孝公者く由支配頭分所也月
お乳ゆ親言六永く書言ゆ是亦計お式
毎立人食解お義眼分結さ也中ゆ言言食也
一日言くく漢獵白渡也方言言案ゆ備親也六
藤飯結さ也中ゆ自分く能混と押隠し
約く内く奥と朽く共一只年事と何ハ
公中と之附海岳ゆ朽良為居ら加色二乳
遊道し事色中ゆお親父又茂不肖誠孝公
とのとを不く者中結しゆ相多一ゆ身
享和之癸亥年二月十三日お意願受中結

因田日教朱田村

百姓

辰大馬

當己癸八歲

右辰大馬係孝幼者之由支配願之祈古以月
お礼の紙書者六歳之時より母親育相成
父親之養育より漸く成長乃以拾九歳
之時父親病歿相成永くお礼の紙書親父母
附依波汝抱田高江江未成古其其耕種方

お此の所元来因守新者右通く次才百日
能浪名迫りりゆ望く父母く穢嫌く透成
以の儘成の農具亦く細之採りて僅其續
之に父母と養ひ共身の事亦く其孫之孫
會約の毎一歩く渡世江ゆ望く而親と志玉白
孝養は公父親為麻七年一毎お果すゆ紙
母親育く之元来亦養く生養る父親為死
く砌より程く字死に置波是此道く事は
中身亦増能浪之新成乃ゆ得会母上の教做
向の所と知く世と自由公の紙出成是

朽く莫肉林束會物。河之之矣後之身也
勢者存良とそし近可く者大波感公父親
代より借根木茂とくは後波借根は者茂
之く故も徳人く系會と近公也者くし
此度は月文化二乙丑年十月六日お通應慶長中書

同國は物西は内村

神主

守永松太

昔己又推蔵

右松太は後奇指成者く由文配成の物也
お札の紙物也く眞實成者く農者く稼
波も情用代宜お言の村く者大根木茂也
く後成の語も公く系は有る借用中裁は成
使請合取留をの比た一切利根もお村中ハ
不厚し人々も。お成の公語物也宜との語
此度は月文化二丙寅年十月九日相應應慶長
十月日

同國は物西は内村

右之通沙底骨在條中上以上

文化六己巳年

伊東稿三所寫

五月廿日

松田定吉

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

孝行奇特者

伊東修理家系
長倉半兵衛

伊集院修理左衛門

日向國於所郡熊谷村是轉指

渡名之吉屋

未口拾貳歲

右者行成者由因有古中出守相紀公又
親治其武拾年未喘息之病氣之穢方
穢亦一切並成其之由親者濕病相煩古親之
養生方之念得夫及相拾九年平外子也云

お親永く之病氣少得大歳末之貧窮
少得先年平於之焼更人食物お細服之由
お親にお興自心より於之於其外夜類
之儀別之波心遣い相又之書お親於
相慈之者有之皆女房之入お進少得去
不波取引其沢之相乱少得お親多年
病氣身右抱液却白汗油急の中
心記法お右通之書お親類大
石段世経お右通者身文化八
辛未年お慈之儀中
伊東修理美願分

同國同郡本愿村是輕指

日高庄之御妻

ご一人

未斗拾歳

右寄持成者由目付九方中出右相乱

左之部は嫁の世に病に苦しむ所後病に發七年
 お成を幸ふ事と不自由に病に苦しむ事
 姑の病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 氣の病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 左の部は病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 お成の病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 見捨の病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 渡世の病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 信の病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 己の病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 連綿の病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 并姑の病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 文化の病に苦しむ事と不自由に病に苦しむ事
 右之通沙の病に苦しむ事

文徳八年未年十二月

長谷川某

伊東修理某家某

相良志摩守支配所日記國柄別權集山
孝行實儀者覺

多嘉良
相良志摩守支配所日記國柄別權集山
孝行實儀者覺

相良志麻呂支配也

日向國臼杵郡椎葉山内村

持之出外八合六夕

没人

没科多人持物

椎葉源六

當末三十一歳

右源六誠孝心且實儀者由没人より
中出山相良の父又由親古存人下之受
近年、自分畑所うせ京と申し和心法

一里程隔前上隈宅と神田の屋敷
源六の父忠吉は江横目設左大内村
本宅に居住し中妹と年少の海軍
為政女抱妻より成かせ東上重を重
其身幸に没用お辨の治るる勿備
夜中にも不意相織父母に母の孝吉
無残所は左家族に連し何歳志厚し
源六意に随ひ孝吉と成し一筆竟

源六教方より自ら其風を化し海と
相見の物又老親を著と避け重と
防くの旨由り勿備人左城下英地
便重と成り山中に得るこも海軍
魚肉の事外味と求め親に近め事
一母事し重幸に眼にお成り人左其外
他國に連り療治すと書しは其を結
りくお眼を治すといふに度中より其

又、年ありまゝに、も、あ、り、ま、と、添、へ
其、亦、飲、食、存、後、い、而、備、た、ま、こ、給、ひ、ま、し
不、自、由、な、ま、く、和、氣、と、附、合、女、抱、ひ、ま、眠、疾
出、生、ま、し、て、法、市、に、連、り、の、途、中、
難、和、多、く、ま、と、引、ら、し、通、路、成、難、い、所
人、と、雇、ひ、代、り、く、者、負、性、来、せ、し、め、の、
右、ま、色、源、の、娘、家、門、の、茂、孝、心、に、後、に、
あ、親、か、し、回、心、す、者、に、度、く、味、い、し、

同、心、す、者、茂、親、存、命、す、者、に、何、茂、親、
孝、心、の、心、地、に、い、は、れ、源、の、心、地、に、ま、
中、く、不、及、ち、し、事、

一、常、く、村、中、に、者、に、對、し、親、疎、偏、頗、り、
著、し、て、哺、と、命、を、い、か、く、万、事、無、
中、教、と、人、の、難、信、と、見、聞、い、る、い、自、分、に、
用、事、と、欠、き、お、救、ひ、御、し、お、し、
求、む、深、切、に、今、世、に、は、村、中、老、幼、

至之實之波公服右所之波人
御中令之令中令心世者下知
收公事

右之通者心實儀者付南文化八末
七月お急儀家員中付以

右源六文

雅葉忠右馬

通末六十武歲

右之者將源六儀者心且實儀稀也
沙抄之語お抄世之儀家員中付源六
温順なる生質なることい地世者儀
前方孝以且及中材方取扱源初等
語お抄稱而中付公程者以地心常竟
源六儀も幼年公事事一と見ん時より
自然之姓と書成上常之中教初等
右之儀と相関文よりなるを得相又

代々孝公と云稱更中付以稀
南文化末七月お海宿家更中付

文化八年辛未年十一月 菊池宗方

相模志麻呂の家来

